

巻機山 エトノボ沢

4/28, 29, '85

メンバー: L 重田富士夫, 田中健

4/28 昨年の雪に比べ、はるかに少なく、ドロ道の井戸尾根を冬の話を重田氏に聞きながら登る。1200mくらいから雪が出て、スキーをつけて歩いた。スキーが大勢いる。明日予定の沢は、雪が切れている。

日射しが強く、雪はグサグサでニセ巻機への尾根へのトラバースは、やや大変だった。このほか時間がかかり、巻機山の少し北側にツェルトを張ったのは3:20分。カスの向に、牛ヶ岳が見えた。

4/29 快晴に恵まれ、谷川連峰、魚沼三山、苗場方面、尾瀬の山々、登山者も満喫していた。エトノボ沢の様子を見、南の縦走路へ行くとずっと雪がある。下々の裏沢をトラバースしてエトノボ沢に入る。斜度も適当だし、雪も8時をすぎ、少しやわらかくなってきた。快調に滑ると、ひと息で沢筋が終わり、まん中の小尾根をくだるが雪がグサグサだ。1150mの台地状で休息。沢の終りあたりで左から小さなデブリがあった。

トノボ尾根への、ブナ林の枝尾根を登る。下るにも適切だ。1550mあたりはテント場にもよさうだ。米子の頭への登りは雪がやわらかく、気を使った。斜度はそれほどもなく、無事通過。縦走路を巻機山まで登り返し、井戸尾根を、井戸壁の上あたりまで滑る。

事故報告

S60, 5, 22

作野晃一

【状況】

入山前の健康状態は何の不安もなく、体力、気力充実していた。又、天候にも恵まれ連日行動をしていたが、肉体的疲労感および精神的ダメージも感じることなく全く快調であった。

昨年2月十二指腸かじょうで11日間入院した。昨年12月の胃カメラでの検診で完治していることを確認していた。又、最近仕事も定時間で残業もなく、規則正しい食生活をしていたのでこの点でも問題はなかった。

【発病の原因の考察】

十二指腸かじょうは、一般的には精神的なストレスが原因で起ると考えられているが、今回の場合そのような心当りはなく、あえて言うなら連日の行動により潜在的(自分でも意識ない)ストレスが蓄積されていたのが原因となつたのかも知れない。急激な運動も発病の引き金になるのではないかと思われる。

今回の事故(発病)に対して、リーダーの遠山さん、メンバーの矢野さん、島田さん、百川さんに大変御迷惑をかけたことをお詫言ひするとともに、何から何までお世話になりましたことを感謝いたしております。又、富山市民病院の退院の際には菅沼、遠山両氏に迎えに来ていただいたことを厚く御礼申し上げます。

追記 ヘリコプター代(1/5) 29,200,-
参考の為ヘリの料金を追記します。

【経過】

- 4/28 入山。雷鳥平より浄土山往復。標高差約600m。行動約3時間。
- 4/29 雷鳥平より真砂岳を経て内蔵助平往復。標高差600m+1000m。行動約12時間。
- 4/30 雷鳥平より剣掛小屋を経て、剣沢(長次郎谷合点)往復。標高差600m+1000m。行動約8時間。
- 5/1 雷鳥平より真砂岳を経て、真砂沢。標高差600m+1000m。行動約6時間。
- 5/2 真砂沢より長次郎谷往復。標高差約11200m。行動約8時間。
- 5/3 午前2:30大量下血。午前8:45ヘリコプターにて富山市民病院へ。



- 4/28 タイム 清水 740 — 米子橋 8:20/40 — 1450m
11:20/1210 — ニセ巻 2:000 — 頂上 320
- 4/29 頂上 755 — 源頭 815 — 1150m 8:30/55
— 1550m 1010/30 — 米子頭 1125 — 頂上 125/210
— 清水 440 (田中 記)

0612

140,00114